

広島創生イノベーションスクール
(英名 : Partnership for Youth (P4Y): Shaping Vision 2030)
共同宣言 (仮訳)

前文

私たちはインドネシア、日本、ニュージーランド、フィリピン、アメリカの高校生110名からなる、広島創生イノベーションスクール (英名 : Partnership for Youth: Shaping Vision 2030) です。

私たちは、2016年の夏にハワイで初めて出会いました。多様な文化やバックグラウンドを持ちながらも、よりよい未来の実現という共通の目標の元に一致団結し、共に活動をしてきました。それぞれの違いを強みとして尊重することで、私たち全員が同じ問題に強い気持ちを抱いていることに気づいたためです。調査やディスカッション、ワークショップなどの様々な活動を通して、各自の地域課題を発見し、持続可能性を意識しながら、包括的な解決策を考えてきました。特に重要と感じた地域課題には、3つの普遍的な課題が存在することがわかりました。その3つとは、「教育」「環境」「地球市民としての意識」です。

そこから、ハワイで考案した解決策を元に、それぞれの地域に目を向け直し、適応させながら実際に活動を続けていきました。しかし、必ずしも意見が一致することばかりではないため、変化をもたらす努力の過程では、いくつかの壁に突き当たり、苦勞をすることもありました。その結果として、他人の意見に耳を傾け、心を開き、建設的な批判を生かすことを学ぶことができました。

多くの困難には突き当たりましたが、仲間にも力をもらっていることに気づき、実際に行動を起こす事の大事さに気づけたのです。直接顔を見て話し、歩み寄りながら協力することの有効性、そしてなによりお互いに理解することの大切さに気づけました。より変化に対応できる環境を創造するためには、世代間の交流を深め、地域のつながりを強くしていくことが不可欠なのです。

辛抱強く復興を成し遂げ、人々の希望に満ちたここ広島で、2017年の夏に再会を果たしました。広島での経験は、歴史とは複雑でありながらも重要で、その結果について考え、それが現在の私たちの価値観にどんな影響を及ぼしているかについて再び考えるきっかけになったのです。更に、世界中の人が、自分自身のためだけではなく、これからの世代のためにも地球を守っていく責任があることに気づきました。「平和」「地球規模の変化」と「イノベーション」のために、互いに協力し、精一杯努力を続けていきます。私たちの声が、よりよい未来をもたらす力になることを強く願い、この共同宣言を発表します。

1. 教育について

課題と展望

「教育と知識」は経済的な地位や、身体的特徴、精神的状態、性別や人種に関わらず、全員に平等に与えられるべき強力なツールです。どの社会でも、最低限の教育の必要性は認識されていますが、それが必ずしも有効に、そして平等に提供されているとは限りません。さらに、経済的・社会的に弱い立場にあることや、障害、差別、健康医療や栄養不足などの、教育を受ける権利を妨げる様々な要因が存在します。

教育の質も同様に、考慮すべき重要な事柄です。子供たちは、自分たちの生活や地域、未来についての聡明な選択ができるような教育を受ける権利があります。

良質で全人的な教育においては、世界全体に影響を与えるような現在起こっている問題を扱うべきであり、生徒や学校にコミュニティとの連携を促したりするべきです。教育の力で生徒が現代社会の様々な課題に取り組むことができるようにしたいです。また、恐れずに議論できる安心安全な場を提供する教育が求められています。こういった教育を支援するために、どの学校にも等しく資金援助をするべきです。学校における意識や優先順位の変化が、これらのニーズを解決するために不可欠です。

解決策

- 必要最低限の教育をそれをすべての人々に提供すること。これは、十分な資金を持った政府によって行われるべきである。
- より多様な文化的背景を扱った、より包括的なカリキュラムを適用すること。
- 世界の若者が、コミュニティと一緒に変わって変化を起こすことを可能にするような教育プログラムを行うこと。
- 文化や言語がより混ざり合った経験を可能にすること。

2. 環境について

課題と展望

環境状態の悪化はとても深刻な問題ですが、その解決は様々な利益のためにたびたび後回しにされてしまいます。それどころか、地球温暖化の現実を否定する、環境資源の枯渇を安易に受け止める人さえも存在しています。更に、過去には、ゴミ処理は企業の責任とされていましたが、適切に管理をしなくなった企業もありました。ゴミ処理に関する適切な教育の不足や、人々の怠慢により、人々が適切な処理を行わず、それが水などの必要不可欠な資源の汚染を引き起こしてしまいます。一部の国では、汚染の解決に尽力する政府も存在しますが、その解決策と規制が不十分なことも多々存在しています。出来るだけ早く解決策を実行しなければいけません。そのためには、政府によるさらなる取組が必要です。私たちは、世界中の若者たちの主体的な参画を鼓舞し、彼らが政府とともに自信を持って、主体的に行動していくことを望みます。

解決策

- よりよい環境保護のための教育をする。例えば、ゴミの適切な分別と処分、ゴミの再利用、水とエネルギーなどの資源の保全など。
- 効率的なゴミ処理システムや、排出、保全に関する法律の制定を政府に説得する。例えば、適切なおごみの分別、ゴミの再利用、適切な量の生産、プラスチックの代わりに再利用できるパッケージを使用するなど。

3. 地球市民としての意識について

課題と展望

私たちの住む世界では、ますますグローバル化が進んでいます。テクノロジーの発達によって、情報へのアクセスがより簡単になりましたが、虚偽の情報が飛び交う中では、信頼性が高い情報を見分けることはより一層難しくなっています。そのため、情報源を見極める方法を知り、適切な情報を得た上で、正しい行動をとることはとても重要です。メディアがどう情報を選択し、その情報をどう取り上げているかも重要な問題であるため、私達は正しいメディアリテラシーを持って情報を取捨選択する必要があります。

国際的な意識は身近なところから生まれます。私たちは、自国も、他国も、文化や宗教の多様性を正しく理解し、そして、受け入れていくことを学ぶ機会が、若者にとって重要であることもわかりました。しかし、私たちすべての人々は、簡単に他人の状況を想定し、決めつけるべきではありません。私たちは世界的な問題に向き合い、挑戦しようとしていくことが、個性や、主体性を養う、大事な要素であることを学びました。世界中の人と人がお互いに繋がっているということに気付けば、私たちはどんな問題も乗り越えられると信じています。

解決策

- それぞれの地域の歴史と、世界の歴史、更にもその影響を学び、深めることができるよう、学校に促す。
- 若い世代が世界情勢と時事問題について話し合うクラブをつくる。
- 学生のボランティア活動を推進していき、市民を巻き込み、学校とその地域とのより活発な交流をつくっていく。
- 適切な情報を判断し活用する情報リテラシーのように、批判的思考能力を養う。
- P4Yや模擬国連のようなフォーラムに参加し、世界中から集まった生徒たちと、類似した重要な問題について議論する。また、そういった自分たちの活動について多くの人に知ってもらおう。
- 地元の古き良き文化を継承し、発信することでその地域に暮らす人々が文化に感謝しつつ、他の文化も受け入れられる多様性を身に付ける。

結語

私たちは、P4Yに参加できる機会をいただけたことに心から感謝しています。私たちは、様々な生い立ちをもった仲間と協働することで、成長することができました。また、様々な重要な問題は複雑にからみ合い、解決するための持続的な方法を編み出すには時間がかかり、苦勞をすることも体験しました。しかし、誰も、私たちが自分から行動を起こすことを止めることはできません。仲間がいれば、1人でやるより何倍も、ずっと心強いです。ここにいる皆様と、そしてこれから出会う世界中の人々が、2030年のよりよい未来というゴールに向けて、協働することができることを願っています。

ありがとうございました。